

あいち山村振興ビジョン2030（仮称）

中間案（概要版）



2025年10月
愛知県総務局総務部
市町村課地域振興室

1 「あいち山村振興ビジョン2030」について

【策定趣旨】

現行の「あいち山村振興ビジョン2025」の計画期間が2025年度に終了することから、三河山間地域の振興について、新たに中期的な目標、考え方を示すとともに、その実現に向けた重点的な取組の方向性を定めるものとして策定する。

【性格】

県が2030年度までに重点的に取り組むべき政策の方向性を示した「あいちビジョン2030」に基づく個別計画

【計画期間】

2040年頃の地域の姿を展望し、2026年度から2030年度までを計画期間とする。

【対象地域】

三河山間地域を対象地域とする。

※ 岡崎市（額田地区）、豊田市（旭、足助、稲武、小原、下山及び藤岡の各地区）、
 新城市、設楽町、東栄町及び豊根村を指す。

【策定状況】

策定時期	名称	計画期間
2009年3月	あいち山村振興ビジョン ～緑が生きる豊かな山の暮らしの構築～	2009～2015年度 (7年間)
2016年2月	あいち山村振興ビジョン2020 ～「やま・ひと・なりわい」を継承し、未来を創る～	2016～2020年度 (5年間)
2020年12月	あいち山村振興ビジョン2025 ～「くらし」・「ひと」・「しごと」を未来へつなぐ～	2021～2025年度 (5年間)



あいち山村振興ビジョン2030



2 「あいち山村振興ビジョン2025」の取組実績

「あいち山村振興ビジョン2025」では、5つの取組の柱のもとで19項目の進捗管理指標を定めて、施策を推進してきた。

重点的取組事項	指標	2024年度実績	2025年度目標値
柱1 安全安心で持続可能な地域社会 づくり	公共交通の主な改善件数（累計）	26件 ◎	10件
	道路供用延長（累計）	4.7km	20.7km
	森林の保全整備面積（毎年）	2,141ha	4,000ha
	農地の保全整備面積（毎年）	898ha	900ha
	三河山間地域の人口	93,355人	95,105人
柱2 関係人口の創出・拡大と地元愛 の醸成	外部人材の交流支援数（累計）	24件 ◎	15件
	移住者数（累計）	916人	1,000人
	移住相談者数（毎年）	349件	500件
	地域協働を行う県立高校数	2校	2校
柱3 なりわいを育てる	就業支援者数（累計）	53人 ◎	50人
	新規就農者数（累計）	46人	85人
	新規林業就業者数（累計）	159人	200人
	サテライトオフィス整備支援数（累計）	9施設 ◎	9施設
柱4 地域資源のさらなる磨き上げ	観光レクリエーション利用者数（毎年）	658万人	660万人
	愛知産ジビエを活用した新商品数（累計）	7商品 ◎	5商品
	スポーツ大会数（毎年）	7大会	5大会
柱5 新たなライフスタイルへの対応	主なリモートワーク可能施設数（累計）	15か所	18か所
	リモートワーク実証実験数（累計）	12件 ◎	9件
	空き家・空き地の調査件数（累計）	330件 ◎	300件

【◎：目標を達成】

2 「あいち山村振興ビジョン2025」の取組実績

「あいち山村振興ビジョン2025」で個別に実施してきた取組の主な実績は以下のとおり。

重点的取組事項	主な取組実績
柱1 安全安心で持続可能な 地域社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村の社会資本整備等に対し、2021年度から山間市町村振興資金貸付金を貸付け（2021～2024年度合計104,700千円） ○ 地域における交通基盤を確保・維持するため、2021年度から市町村の路線バス運行経費やバス車両の更新経費を支援（2021～2024年度合計446,740千円） ○ 情報通信基盤について、公設公営方式で整備・運営している北設楽郡3町村に対し、民間事業者への事業譲渡の検討が円滑に進むように支援するとともに、地元の負担軽減策について国への要望を実施 ○ 広域幹線道路ネットワークを一層強化するため、国道151号等の道路整備を推進 ○ 森林・農地の多面的機能の維持・向上のため、あいち森と緑づくり事業等による間伐等の森林整備や農業水利施設等の補修や更新を行う活動の支援を実施
柱2 関係人口の創出・拡大 と地元愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 愛知県交流居住センターを通じて、外部人材を求める地域の事業者と地域外にいる兼業・副業・プロボノ人材とのマッチングを支援 ○ ふるさと回帰支援センター（東京都有楽町）に2021年度から本県専属の相談員を配置した移住相談窓口を設置するとともに、イベントへのブース出展やセミナーを開催 ○ WEBサイト「あいちの山里時間」を2021年度に開設して三河山間地域の魅力を情報発信するとともに、各種SNSにおいてインフルエンサーによる情報発信を実施 ○ 田口高校、新城有教館高校作手校舎と設楽・津具・豊根・東栄・作手中学校との間で故郷への愛情と誇りを育むふるさと交流活動（お仕事フェア、芸術展覧会交流）を実施
柱3 なりわいを育てる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「三河の山里サポートデスク」（新城市）を拠点として、起業等により地域課題解決に挑戦するあいちの山里アントレワーク実践者を募集し、採用された実践者に起業プランの実現に向けた支援を実施 ○ 農業と他の仕事を組み合わせた働き方である半農半Xについて、相談会、セミナー及び志望者を対象とした現地見学会・市町村等を交えた意見交換会を開催 ○ 愛知県林業労働力確保支援センター等と連携した就業相談活動や研修事業等を実施したほか、意欲と能力のある林業経営体の育成、新規就業者への支援を実施
柱4 地域資源のさらなる 磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奥三河の「多彩な美」に関する魅力創造・発信のため、県内でのプロモーションイベント及び東京都、大阪府を含めた県外での観光PRを実施したほか、SNSを用いて情報発信するとともに、奥三河の商品や体験プログラム等を紹介したカタログ「okumikawAttract」を作成
柱5 新たなライフスタイル への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三河山間地域のワーケーション等を先導的に推進するため、奥三河総合センターにおいて必要な環境を整備した上で実証実験を行い、その後、モニターツアーを実施。市町村や民間事業者と結果を共有してワーケーション等を促進

2 「あいち山村振興ビジョン2025」の取組実績

「あいち山村振興ビジョン2025」では、三河山間地域を4つに分け、地域に沿った施策を展開してきた。主な取組は以下のとおり。

◆額田地域	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域資源を活かした商品販売を進めるとともに、遊休農地を活用して栽培した漆や楮等の高収益作物のブランド化を推進 ○ 自転車を通じた関係人口の創出・拡大に向け、地域住民とサイクリストによる清掃活動や、マウンテンバイクのコース作りを実施 ○ 林業の6次産業化の推進とともに、中山間地域の持続性を高めることを図り、中山間地域への移住促進、農林業の担い手確保等も実施する地域商社「株式会社もりまち」を岡崎市も出資して設立、林業の担い手確保のための体験イベントや講習会等を開催 ○ 地域の魅力発信、地域資源を活用したイベントを実施し、都市部住民を地域に呼び込むことにより地域活性化を推進
◆豊田加茂地域	<ul style="list-style-type: none"> ○ 住まいに関する魅力を発信するプロモーション事業を実施するとともに、首都圏からの移住、山村部での住宅取得を応援する補助金事業を実施 ○ 交流・連携・移住の相談機能を備えた総合窓口となる「おいでん・さんそんセンター」において、都市部の市民や、事業者等と山村部の交流機会を創出するマッチングやコーディネートを実施。山村の価値を都市部を含む市民と共有するとともに、とよたの山里応援隊の募集派遣等を通じて山村地域の集落活動の支援を実施 ○ 道の駅「どんぐりの里いなぶ」について、再整備工事を経て、2022年7月2日にリニューアルオープンし、地元産品を活用した商品販売やイベント広場を活用した賑わい創出を支援
◆新城地域	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東名高速道路豊橋新城スマートIC（仮称）の早期供用に向けた取組を実施 ○ 第20回アジア競技大会における自転車競技（ロードレース）の競技会場とされている新城市が自転車のまちとして市民にも自転車が普及していくように、地域プロジェクトマネージャーと地域おこし協力隊が連携し、市民が自転車に触れる機会を創出、市外から関係人口を創出するための企画を実施 ○ 東三河ドローン・リバー構想推進協議会における、実証実験への支援や市民のドローンに対する理解促進を図るイベントを開催、先進企業の活動拠点として廃校等の施設の利用提供、ドローンの効果的な活用方法の検証を実施 ○ 「しんしろ軽トラ市」や事業等の支援を行うことにより、小規模事業者及び商店街の活性化を推進
◆北設楽地域	<ul style="list-style-type: none"> ○ 起業や特産品開発等に対する支援を実施（設楽町、東栄町、豊根村） ○ 北設楽郡唯一の高等学校である田口高校で、地域で働くことへの意識を高める「田口高校お仕事フェア」を開催（設楽町、東栄町、豊根村） ○ 移住者に対する支援を実施することにより、移住・定住を促進（設楽町、東栄町、豊根村） ○ チョウザメ養殖事業に取り組み、ふるさと納税の返礼品として「豊根村ロイヤルキャビア」の出品を開始、知事を表敬訪問するとともにPRを実施（豊根村） ○ 「おでかけ北設」事業として、北設楽郡3町村による連携した公共交通網システムを実施（設楽町、東栄町、豊根村）

3 「あいち山村振興ビジョン2025」策定後の変化

人口減少の加速や少子高齢化の進行など地域経営を一層困難にする変化がある一方で、山村地域の魅力の再認識や山村地域が持つ特徴を活かした新たな価値の創造など、地域の活性化につながる変化も生じている。

1 人口減少の加速・少子高齢化の進行

- 人口減少が加速するとともに、少子高齢化が一層進行しており、地域の労働力・後継者、地域活動の担い手が不足している。その結果、地域の産業が衰退し、耕地面積の減少、森林の荒廃が進むとともに、集落の活動の実施も困難になっている。



- 地域における働く場を創出・確保することにより、若者の地域への定着を図る。
- 人口減少下でも機能する地域社会を構築するための取組を進める。

3 山村地域の魅力の再認識・新たな価値の創造

- 都市部に住む人々が、山村地域が持つ豊かな自然や文化、山村地域での暮らし方等の魅力を再認識することで、その魅力を体感するために、地域を訪問したり、地域に移住したりするという機運が高まっている。
- 企業等による社会貢献活動や大学等によるフィールドワークが盛んに行われており、その中で地域課題の解決に向けた取組も実施されている。
- カーボンニュートラル、ウェルビーイング等、山村地域が持つ特徴が新たな価値として創造されている。



- 三河山間地域が持つポテンシャルを最大限活用することで、交流人口や関係人口を拡大するとともに、地域への移住や定住をさらに促進する。
- 企業等が実施する社会貢献活動や大学等が実施するフィールドワークを、三河山間地域に呼び込む。

5 デジタル化・DXやイノベーションの加速

- デジタル技術を始めとした新しい技術の普及が進んでおり、それらを活用することで医療や教育、農林水産業を始めとした様々な地域課題が解決する可能性が高まっている。
- アフターコロナにおいて、リモートワークやSNSを活用した情報発信など、新たなライフスタイルが定着している。



- 加速するデジタル化・DXやイノベーションの流れを三河山間地域に呼び込み、地域課題の解決につなげる。

2 厳しい行財政状況や災害リスクの高まり

- 行政ニーズが複雑化、多様化する中で、行政において建築、土木、医療等に従事する専門職員が不足している他、近年急速に進展しているデジタル化への対応にも課題が生じている。
- 道路や上下水道など、人々の生活に必要不可欠なインフラの老朽化が進んでいる。
- 近年の災害の頻発化、激甚化により、災害への対応力を強化する必要性が高まっている。



- これまで継続的に実施してきた持続可能な行財政基盤の確立や災害対応力の強化に向けた取組などを、今後も継続していく。

4 各種プロジェクトの進展

- 東三河森林ルネッサンスプロジェクトや矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクトなど、地域を取り巻く様々なプロジェクトが進展している。
- 2024年3月にトヨタテクニカルセンターや下山が全面運用開始され、約3,000人の従業員が雇用されていることに加え、地域外から多くの人が来訪する施設となっている。
- 2026年に開催される第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会において、豊田市下山地区にある愛知県総合射撃場及び新城市内を発着する自転車競技コースが競技会場となっており、国内外から多くの観光客が訪れる機会となる。
- 三遠南信自動車道東栄IC - 鳳来峡ICについて、2025年度中の開通を目指して工事が進められるなど、大規模道路ネットワークの整備が進んでいる。
- 設楽ダムについては、2034年度の完成を目指し、2024年11月に本体工事着工式が執り行われた。また、国道473号線の月バイパス、国道420号線の田峯バイパス等、ダム周辺の道路についても整備が進められている。



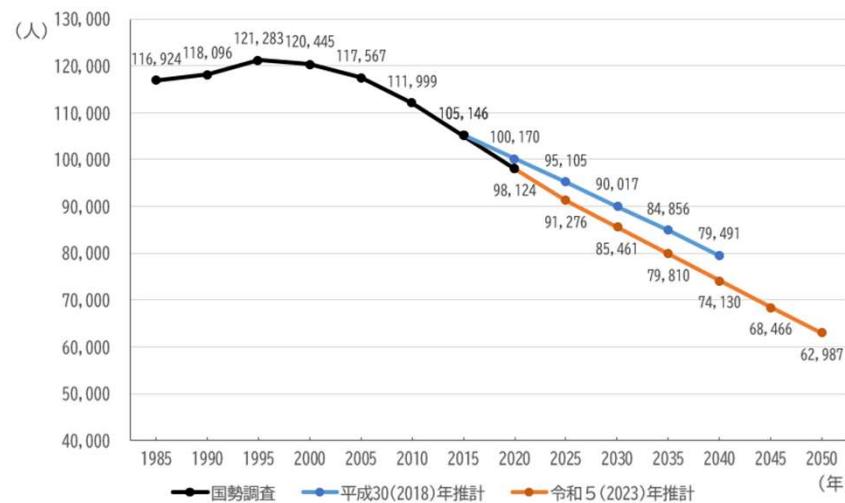
- 各種プロジェクトによる人の流れ・物の流れを始めとした新たな社会経済活動を取り込み、地域の発展につなげる。

4 2040年頃の地域の展望

1 社会

- 地域の総人口は、国勢調査では1995年の約12.1万人をピークに減少を続けている。今後の推計では、2040年に約7.4万人になることが予想され、ピーク時と比べて39%程度減少することが見込まれる。
- 少子高齢化が一層進行し、推計では2040年に生産年齢人口は48%程度、老人人口は43%程度になることが見込まれる。特に、北設楽郡の町村においては、老人人口が50%を超えることが見込まれる。
- ライフスタイルの多様化が進み、未婚化や核家族化の影響も受け、単身世帯が増加していることが見込まれる。また、少子高齢化の進行に伴い、高齢者の単身世帯や高齢者のみの世帯が増加していることが見込まれる。
- 在留資格「特定技能」等の制度により、様々な国籍の外国人材の受入れが進み、地域に住む外国人が増加している可能性がある。
- デジタル化の動きが加速することで、好きな時間に好きな場所で働くことが可能になり、住む場所の制約が減り、より豊かでゆとりある環境での暮らししが可能となっていることが見込まれる。

図表：三河山間地域の人口総数の推移・推計



出典：総務省「国勢調査」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、
「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」
※岡崎市（一部）は岡崎市額田地区、豊田市（一部）は豊田市旭、足助、稲武、小原、下山、藤岡の各地区
※岡崎市（一部）、豊田市（一部）の推計人口は、総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を元に地域振興室で算出

2 経済

- リニア中央新幹線品川－名古屋間の開業が見込まれる。
 - リニア中央新幹線や三遠南信自動車道を利用して首都圏からの移動時間が大幅に短縮されることから、人の動きが活発化し、都市部から地域への移住の増加や都市部との二地域居住の普及、関係人口の拡大が進んでいる可能性がある。
- 設楽ダムが完成している。（2034年度予定）
 - 利水・治水の機能だけでなく、インフラツーリズムの対象として魅力ある観光資源となっている可能性がある。
 - 設楽ダムの完成に先立ち、関連施設として「山村都市交流拠点施設」の整備が予定されており、地域内外の人々の交流が盛んに行われていることが期待される。
 - ダム周辺の道路が整備され、道路状況が大幅に改善されている。
- 三遠南信自動車道東栄IC－鳳来峡IC間が開通している。（2025年度開通予定）
 - 輸送時間が短縮されることによる沿線地域の産業の活性化や、広域的なアクセス性の向上による観光交流の活性化、救急搬送時間の短縮等を通じた地域の医療サービスの向上が期待される。

図表：三河山間地域を取り巻くプロジェクト



5 「あいち山村振興ビジョン2030」の目標

基本目標

将来にわたって活力あふれ、輝き続けるあいちの山里の実現

- 三河山間地域は、水源のかん養や自然災害の防止等の機能に加え、近年の森林資源を活用したカーボンニュートラルの推進や豊かな自然環境を活用したウェルビーイングの向上等への関心の高まりにより、新たな価値が創造されている。
- 三河山間地域は県全体にとって重要な役割を持ち、森林資源を始めとした地域資源は県民全体にとって貴重な財産である。
- しかしながら、この地域の人口減少・少子高齢化は一層加速しており、今後は担い手不足等により社会経済活動が維持できなくなることが危惧される。
- このため、働く場の創出・確保による若者の地域への定着や、地域のポテンシャルを活用した交流・関係人口の創出・拡大を図ることにより社会経済活動の担い手を確保するとともに、加速するデジタル化・DXやイノベーションの流れを地域に呼び込むことにより、限られた担い手でも機能する地域社会を構築していく必要がある。
- 加えて、設楽ダムを始めとしたビッグプロジェクトによる新たな社会経済活動を地域の発展につなげていく必要がある。
- こうした様々な取組を実施することにより、人口減少に適応し、地域の社会経済活動を維持することで、将来にわたって活力あふれ、輝き続けるあいちの山里の実現を目指す。

取組の視点

①多様な主体との共創【コ・クリエイション】

- 関係人口に加え、地域外の民間企業や大学、各種団体等との連携を拡大し、地域内外の多様な主体が、それぞれが持つ資源（人材、技術、資金等）を適切に組み合わせることにより、地域の課題を解決することを目指す。

②新しい技術やアイデアの積極的活用【イノベーション】

- 新しい技術やアイデアをこれまで以上に積極的に活用することで、社会経済活動に変革をもたらし、地域の活力を高めることを目指す。

③環境変化への適応力強化【レジリエンス】

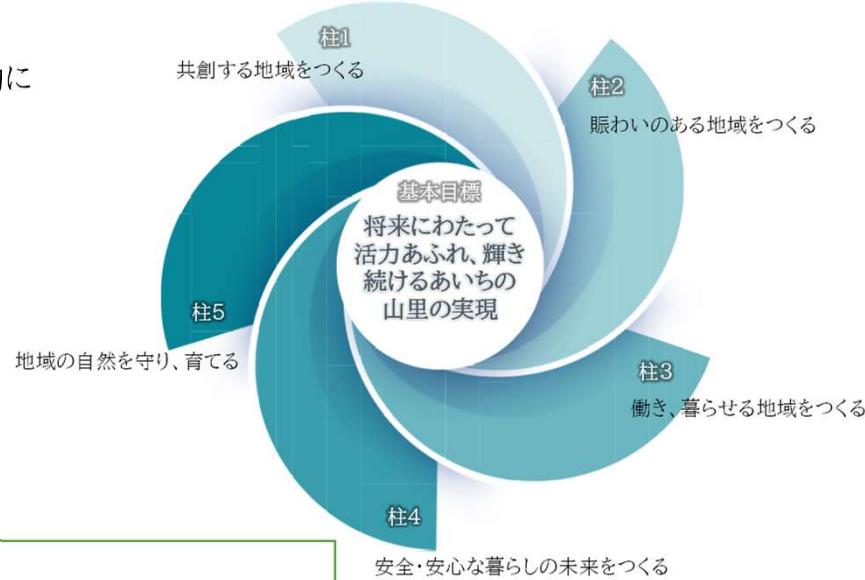
- 人口減少や少子高齢化、市町村の厳しい行財政状況、災害リスクの高まりや、価値観の多様化、国際化等の様々な環境変化に対する適応力を高め、SDGsの理念も踏まえた持続可能な地域社会を確立することを目指す。

6 重点的取組事項

5つの取組の柱

基本目標の実現に向けて、2030年度まで重点的に取り組むべき事項を5つの柱として構成する。

- 柱1 共創する地域をつくる
- 柱2 賑わいのある地域をつくる
- 柱3 働き、暮らせる地域をつくる
- 柱4 安全・安心な地域の未来をつくる
- 柱5 地域の自然を守り、育てる



柱1 共創する地域をつくる

【取組の方向】

- ・ 地域の社会経済活動の担い手を確保するため、より活動的な関係人口を呼び込むとともに、地元愛を持って地域づくりに主体的に関わる人々を増加させ、活動人口の創出・拡大を図る。
- ・ 加速するデジタル化・DXやイノベーションの流れを地域に呼び込むことにより、限られた担い手で機能する地域社会を構築する。

【進捗管理指標】

- ・ 関係人口による地域での活動件数
- ・ 地域課題解決のためのデジタル技術等の活用件数

【主要な取組】

- ・ 地域の担い手となる関係人口の創出・拡大と受入促進
- ・ 地域活動の担い手発掘・育成支援と地元愛の醸成
- ・ 県立高校における地域連携の推進と地域の教育活動に対する支援
- ・ 地域社会への外国人住民の参画や地域における交流・相互理解の促進
- ・ 地域課題解決のためのデジタル技術等の活用の推進

柱2 賑わいのある地域をつくる

【取組の方向】

- ・ 豊かな自然環境や暮らし、文化など、三河山間地域の魅力を最大限活用し、交流人口を拡大する。
- ・ 森林を始めとした地域資源が持つ新たな価値を活用することにより、地域の稼ぐ力を高める。

【進捗管理指標】

- ・ 観光レクリエーション利用者数
- ・ スポーツ大会数

【主要な取組】

- ・ 地域の資源を最大限に活用した交流人口の拡大推進
- ・ 伝統文化等の保存・継承と発信
- ・ 各種スポーツを通じた交流の拡大
- ・ 森林資源等を活用した地域の稼ぐ力の向上
- ・ 愛知産ジビエ等の利用促進

6 重点的取組事項

柱3 働き、暮らせる地域をつくる

【取組の方向】

- ・ 地域における働く場を創出・確保することにより、若者の地域への定着を図る。
- ・ 就業支援を充実することにより、農林水産業の就業者を確保する。
- ・ 地域への移住・定住を更に促進する。

【進捗管理指標】

- ・ 三河山間地域の人口
- ・ 就業支援者数
- ・ 農業の新規就業者数
- ・ 林業の新規就業者数
- ・ 移住者数

【主要な取組】

- ・ 既存組織との連携によるなりわい支援や地域を越えた人材ネットワークの形成
- ・ 地域産業の活性化に向けた事業創出や円滑な事業承継の支援
- ・ 農林水産業の担い手確保・育成
- ・ 農林水産業の競争力向上
- ・ 移住・定住、二地域居住の促進

柱5 地域の自然を守り、育てる

【取組の方向】

- ・ 多面的機能を持つ森林・農地等の保全・整備を推進する。
- ・ 自然環境・生物多様性の保全を推進する。

【進捗管理指標】

- ・ 森林の多面的機能を発揮させる間伐面積

【主要な取組】

- ・ 森林・農地等の保全・整備及び多面的機能の理解促進
- ・ 鳥獣被害対策の推進
- ・ 自然環境・生物多様性の保全の推進

柱4 安全・安心な地域の未来をつくる

【取組の方向】

- ・ 将来にわたって安全・安心に暮らせる地域社会を維持する。
- ・ 公共交通や交通基盤、情報通信基盤、子育て環境、医療等を確保する。

【進捗管理指標】

- ・ 公共交通の主な改善件数
- ・ 道路供用延長

【主要な取組】

- ・ 持続可能な行財政基盤の確立
- ・ デジタル技術を活用した持続可能な行政運営の推進
- ・ 地域の実情に合った公共交通の維持・確保への支援
- ・ 広域交通基盤の整備・強化
- ・ 社会資本整備等に対する支援
- ・ 情報通信基盤の整備・運営に対する支援
- ・ 大規模災害への備え
- ・ 子育て支援の充実
- ・ 質の高い医療等を提供する体制の確保

7 地域別の取組の方向

三河山間地域を一律に捉えるのではなく、地域の特性、各市町村における山村地域の振興に対する考え方を考慮して4つの地域に分け、地域ごとに取組の方向を整理し、施策を推進していく。

額田地域（岡崎市額田地区）

【取組の方向】

- ・ 地域の維持・活性化に向け、住民主体で行う取組を支援とともに、学生ボランティアを取り込むなど、地域活動の担い手の確保を推進する。
- ・ 環境に配慮し、付加価値の向上も図る有機農業の取組を推進とともに、耕作放棄地を活用した漆等の高収益作物の栽培による新たな産業を振興する。
- ・ 市産材の利用促進、放置竹林の整備と発生竹材活用による活動費確保の仕組みづくりなど、地域資源を活用した取組を推進する。

新城地域（新城市）

【取組の方向】

- ・ 移住・定住、関係人口を創出するため、積極的にシティプロモーションを実施する。
- ・ 第20回アジア競技大会において競技会場となっている自転車ロードレースや、トレイルレースなどのアウトドアスポーツを推進する。
- ・ 2026年度の完成を目指し工事が進められている東名高速道路豊橋新城スマートＩＣ（仮称）について、アクセス性の向上を活用するため、企業用地の確保・整備を含めた周辺整備を推進する。
- ・ 地域キャリアコーディネーター業務として採用した地域おこし協力隊を中心に、若者の就業支援や企業側のスキルアップ等を行う。

豊田加茂地域（豊田市旭、足助、稲武、小原、下山及び藤岡の各地区）

【取組の方向】

- ・ 足助高校の生徒と地域が連携し、観光ビジネスを肌で学ぶ体験型の授業を実施することで、地域で活躍できる人材の育成及び地域課題の解決に取り組む。
- ・ 「おいでん・さんそんセンター」による山村地域での活動や、社会貢献を希望する企業や団体と地域のマッチングを支援することで、都市と山村の交流を通じた関係人口の創出・育成を推進する。
- ・ 空き家情報バンク事業の充実や空き家活用を支援することにより、移住を促進する。

北設楽地域（設楽町、東栄町及び豊根村）

【取組の方向】

- ・ アウトドアやサイクリングなどを切り口として、豊かな自然や文化などの地域資源を最大限活用した取組を実施することで、交流人口、関係人口の創出・拡大を推進する。
- ・ 北設楽郡唯一の高等学校であり、県内唯一の林業科がある田口高校について、関係機関と連携しながら一層の魅力化を図る。
- ・ 空き家バンクの活用による空き家所有者と移住等希望者のマッチングや、空き家活用補助などを実施することで、移住希望者を支援し、定住を促進する。
- ・ 「おでかけ北設」事業として北設楽郡3町村が連携して公共交通を運営するなど、地域の実情に沿った持続可能な移動手段を確保することで、暮らし続けられる地域の維持を目指す。

8 ビジョンの推進に当たって

推進体制

①山村振興推進本部による総合的推進

- 三河山間地域の振興を総合的に推進する全庁的組織である山村振興推進本部において、ビジョンに位置付けた施策の進行管理及び施策間の連携・調整等を行う。

②県と市町村の主な役割

【県の役割】

- 広域自治体として、広域自治体だからこそ実施可能な施策に積極的に取り組む。
- 施策の推進に当たっては、関係市町村、地元団体、企業等と協力していく。
- 地域に出向くことで多岐にわたる三河山間地域の課題を把握するとともに、関係局を横断して連携することで、ビジョンに位置付けた施策を積極的に推進する。

【市町村の役割】

- 住民に最も身近な行政主体として、地域の抱える様々な課題に対して地域と協働し、主体的に地域づくりを進めていくことが求められる。
- 地域づくりの主体として、地域の実態やニーズの把握に努め、住民の地域づくり活動等について、住民の議論の活発化を図るとともに、地域課題の解決に向けた積極的な支援を行うことが必要である。
- 各市町村の総合計画や山間地域に関する計画等に位置付けられた施策を積極的に推進する。

進捗管理

①年次レポートによる点検・見直し

- ビジョンの推進に当たっては、このビジョンで示した施策の着実な推進を図っていく一方で、2030年度までには、現時点で想定し得ない様々な社会経済の変化が起こることも予想される。そのため、毎年度、年次レポートを作成し、ビジョンに示されている施策の進捗状況や新たに取り組むべき課題の把握など、ビジョンの更なる充実を図っていくとともに、社会経済の変化に応じてビジョンの点検、見直しなどを行っていく。

②ビジョンの周知

- ビジョンの基本目標を達成するためには、県民の方一人一人の協力が不可欠である。様々な機会を通じて、ビジョンとその進捗状況を周知することで、県民の方との共有を図る。